

日本青年会議所 建設部会 2018年度 副部会長 所信

副部会長（近畿・中国・四国地区担当） 磯道 忠男

建設土木工事を終わると、連動して国の管理する不動産登記簿へ施主の名義に登記をしたり、融資に関連して担保の登記をします。ここ15年でみると、平成15年の2,000万件の登記件数をピークに、平成28年は1,300万件と35%も減少しています。これは、この業界の35%の人手が要らないという事です。社会問題として、少子高齢化の問題もありますが、当然、仕事の需要がないことは関連性が強いものでないでしょうか。

近年、世界は観光立国を目指しインバウンドに期待しております。日本でも、国土交通省観光庁が平成24年3月30日より閣議決定した「観光立国推進基本計画」を押し進めております。これは、行政経済を異にする各市町村レベルでも同じ事が言えます。自分たちの住み暮らす地域から別の地域へ観光に行き、文化施設の見物やご当地の食を堪能する、そして時間が足りなければ宿泊し次の日も観光する。この人の流れは多くの仕事を喚起するものだとは確信します。施設の老朽化に伴う改装工事、道路の整備もあります。もしかすると新しい施設の建設や、新しい道路等のインフラ整備にもつながる可能性があります。そのためには我々部会員が情熱を持って、事業を展開する必要があります。本年度も、日本建設部会の魅力の1つである研修を通じ、会員及び会員企業が成長を実感でき、また各企業にフィードバックできる、しかも会員間の絆が強靱になれる、そんな研修を押し進めて参ります。研修を終えた後、会員間の強いネットワークが醸成され、ビジネスを中心とした会員の交流を通して会員企業が成長し、安心して生活できる真に豊かな社会づくりに貢献できる事を願ってやみません。

結びに、1年間という短い時間ではありますが、業界の更なる発展に寄与すると共に、設立趣意書にある「建設産業の正しい発展と日本文化の向上の一翼を担う」ことを念頭に、本会の深化に繋がる活動に取り組んで参ります。